

フランス人のための日本語映像教材製作

ルロワ・パトリス研究会 慶應義塾大学総合政策学部3年 嶋香織

1. 概要

本プロジェクトは、「日常の日本」を扱った映像教材によって、日本語を学習する外国人（今回はフランス人）が「本当の日本文化」と「本当に使える日本語」の習得を可能にすることを目的とした映像教材製作を行っている。今回は、その映像教材のコンテンツ製作にあたって、リアルな日本を伝えるために現地での調査活動及び撮影活動を行った。

2. 背景

海外において日本は、未だに侍・アニメ・テクノロジーといったステレオタイプのイメージを持たれている。また従来の日本語教材では、日本人が日常的に使う表現に限って教えられていないことも多い。日本人が本当に伝えたいステレオタイプではない日本と、生きた日本語を話したい外国人の2つのニーズを満たすため、本研究では新しい切り口からの日本語映像教材を製作することとなった。

3. 活動内容

今回は、「オタク文化」「栄養ドリンク」「こたつ」「バッティングセンター」をテーマにし、現地での調査活動と撮影活動を10月11日から11月29日の間に4回かけて行った。大学外の口ケ地として、秋葉原、新宿、日吉、大和を選定した。事前準備として、扱うテーマについて研究チームメンバーでディスカッションを行い、切り口を定めてシナリオを作成した。調査と撮影を円滑に行うために、現地を想定してスキットの練習をするなどして入念な準備を行った。実際の調査活動では現地でのインタビューや町の視察を通じて事前に用意したシナリオとのずれを確認し、シナリオやカメラの構図をブラッシュアップして撮影に臨んだ。

(1)オタク文化についてのスキット製作

オタク文化こそ日本のステレオタイプと見なされているが、そのあり方は近年のオタクブームを経て少しずつ変化している。秋葉原に行き、秋葉原に集う人々の実態と商業店舗について調査し、教材製作のためのスキット撮影を現地で行った。

(2)栄養ドリンクについてのスキット製作

日本には様々な種類の栄養ドリンクがある。栄養ドリンクを多く消費すると考えられるサラリーマンの多い新宿に行き、栄養ドリンクが必要とされる背景について調べ、教材製作のためのスキット撮影を行った。

(3)こたつについてのスキット製作

「こたつ」は、日本にいる外国人に人気の日本文化の一つであると言える。「こたつが家族の団欒を促進する」という仮説をもとにシナリオを考え、日吉キャンパスの和室にて撮影を行った。

(4)バッティングセンターについてのスキット製作

独りで、あるいは友達や恋人とバッティングを楽しむのも日本で見られる独特の光景である。大和のバッティングセンターでの視察を行った。

4. 活動の成果

現地での調査活動と撮影活動によって、日常の日本を新しい切り口から紹介する映像の撮影に成功した。事前にディスカッションなど入念な準備を重ねたものの、現地へ赴くと予想を上回る実態に直面することもあった。しかしそのおかげで状況に合わせてシナリオやカメラの構図を改良することができ、リアリティのある映像を撮影することができた。生きた街での撮影によって現代の日本をそのまま伝えることが可能になり、目指す日本語教材の質をより高めることができた。

5. 今後の展望

今後は撮影されたスキットについては編集を行いフランス語の字幕を付けて完成させ、フランス人の日本語学習者や一般のフランス人に公開する予定である。また、文化についての学術的な解説や、スキットに出てくる文法の解説もコーナーを設けて撮影する予定である。

6. 謝辞

本プロジェクト実施にあたってお世話になった関係者の皆様に感謝したい。また、本プロジェクトは2009年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」の支援の下に行われた。